

くわなべついでんほんとうじほうおんこうあんない
桑名別院本統寺報恩講案内（22日）

| | | | |
|--------|----------------------------------|--------------------------------------|--|
| 7:00～ | <small>ちゆうじんじょう</small> 中晨朝 | 法話 | <small>かたやま かんりゆう</small> 片山 寛隆 氏 |
| 10:00～ | <small>ちゆうにつちゆう</small> 中日中法要 | | |
| 11:20～ | 法話 | <small>たしろ しゅんこう</small> 田代 俊孝 氏 | <small>ぎやうじゆんじ</small> (いなべ市 行順寺住職) |
| 13:30～ | <small>けちがんたいや</small> 結願速夜法要 | <small>おかぎやくごさんしゅう</small> 御鍵役御参集 | |
| 15:00～ | 法話 | <small>たしろ しゅんこう</small> 田代 俊孝 氏 | <small>ぎやうじゆんじ</small> (いなべ市 行順寺住職) |

おかぎやくごさんしゅう
御鍵役御参集

門首を補佐するとともに、本山御影堂の親鸞聖人御真影を安置するお厨子の御鑰（かぎ）の管理にあたる方を「鍵役」といいます。この鍵役に御参勤いただくことを御参修といいます。

桑名別院報恩講では、毎年、22日の結願速夜から23日の結願日中（御満座）まで御参修いただいております。

とき
お 齋

お齋とは各寺院・御門徒宅での報恩講はじめ法事などの仏事に出される食事のことです。元来仏教の出家者は1日1食とされ、正午以後に食事をするのは「非時（ひじ）」として禁止されてきました。そのことから午前1度の食事を「お齋（おとき）」といたしました。

「寄り合い」や「講」として、ご門徒が寺や道場に集まり、仏法を聴聞し、持ち寄った野菜で料理を作り、一緒に食事をするを通して人と人のつながりを深め、信仰を確かめ続けてきました。中でも真宗門徒にとって一番大事な仏事「報恩講」にその伝統が引き継がれているのです。

桑名別院の報恩講においても、三重県内各地のご門徒より材料が持ち寄られ、お勝手方によって独自のお齋を用意いただきます。

ほうようしだい 法要次第

7:00~
 正信偈
 念仏讚
 和讃
 回向
 御文

ちゅうじんじょう
中晨朝
 そうしくめさげ
 草四句目下
 ゆり
 淘三
 みだじょうぶつ
 弥陀成仏ノコノカタハ
 願以此功德
 まいねんふけつ
 毎年不闕

どうぼうしょうわ
 同朋唱和
 じだいろくしゅ
 次第六首
 じょうめだい
 3帖目第11通

(上-30丁右)
 (上-99丁右)

10:00~
 伽陀
 登高座
 式嘆徳文
 伽陀

ちゅうにつちゅう
中日中法要 (楽)
 けいしゅてんにん
 稽首天人

つけもの
 附物

(上-315丁右)

伽陀
 若非釈迦
 世尊説法
 身心毛孔
 直入弥陀

にやくひしゃか
 若非釈迦
 せそんせっぽう
 世尊説法
 しんじんもうく
 身心毛孔
 じきにゆうみだ
 直入弥陀

つけもの
 附物
 つけもの
 附物
 つけもの
 附物
 つけもの
 附物

(上-316丁右)
 (上-318丁右)
 (上-320丁右)
 (上-321丁右)

下高座
 文類偈
 念仏讚
 和讃
 回向

げこうざ
 文類偈
 ねんぶつさん
 念仏讚
 わさん
 和讃
 えこ
 回向

そうしくめさげ
 草四句目下
 ゆり
 淘八
 しょうじくかい
 生死ノ苦海ホトリナシ
 願以此功德

さんじゅうねんぶつ
 三重念仏
 しだいまんしゅ
 次第四首
 つけもの
 附物

(上-60丁右)
 (上-129丁右)
 (上-205丁左)

13:30~
 正信偈
 念仏讚
 和讃
 五遍反
 回向
 御俗姓

けちがんたいや
結願速夜法要 (楽)
 くぎり
 句切
 ゆり
 淘八
 ごじゅうろくおくしちせんまん
 五十六億七千万
 せそんがいつしん
 世尊我一心

さんじゅうねんぶつ
 三重念仏
 しだい
 次第六首
 つけもの
 附物

(下-1丁右)
 (上-129丁右)
 (上-279丁右)

※ () 内は「大谷声明集(緑本)」です
おたにしやうみやうしゅう